

公益社団法人企業情報化協会が2019年度IT賞受賞企業を発表
“ITを活用した経営革新”に顕著な努力を払い優れた成果として
「2019年度第(37回)IT賞」優秀賞受賞が決定!

コカ・コーラ ボトラーズジャパン(本社:東京都港区 代表取締役社長:カリン・ドラガン、以下当社)は、このたび公益社団法人企業情報化協会(通称:IT協会)主催の「2019年度(第37回)IT賞」にて、IT優秀賞を受賞しました。

なお2020年2月6日(木)、7日(金)に開催の同協会主催「第35回IT戦略総合大会(ITMC 2020)」(東京・港区「東京コンファレンスセンター品川」)会期内にて、表彰式典が行われます。

IT賞は、同協会がわが国の産業界において、“ITを活用した経営革新”に顕著な努力を払い優れた成果をあげたと認めうる企業・団体に対し授与している表彰制度で、1983年の第1回より今年で37年目を迎えます。2019年度は、IT賞審査委員会(委員長:斎藤信男 慶應義塾大学名誉教授)による厳正な審査の結果、IT最優秀賞に3社が受賞したほか計27件35社が決定致しました。

当社は、2017年の経営統合に際して、ITを経営の中核機能と位置付け、ERPシステム「CokeOne」の導入を通じたビジネスプロセスの標準化を決定から2年強という短期間で達成しました。その具体的方法は次の通りです。

- ① 統合時4部門であったIT組織を社長直轄組織のビジネスシステム本部として一本化に再編、BS本部長を社外から招聘
- ② 複数存在していたERPをSAPベースのERPシステム「CokeOne」に刷新、ITプロジェクトではなくビジネスプロジェクトとして全社で推進し、2019年10月に完了
- ③ 旧システム群を停止しサーバー数を大幅削減、技術を標準化することでコスト削減を実現

当社グループは、これからもすべての社員が能力を最大限に発揮できる機会を提供することにより、変革・革新を生み出し、価値創造につなげ、競争力を高めた品格を備えたエクセレントカンパニーとなることを目指します。

■会社概要：コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社

コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社は、宮城県から鹿児島県までの1都2府35県（長野県、富山県、石川県、福井県除く）を営業地域として、コカ・コーラ社製品を製造・販売するボトラー（ボトリング会社）です。

日本のコカ・コーラシステムの約9割の販売量を担う、国内最大のコカ・コーラボトラーであるとともに、世界に250以上あるコカ・コーラボトラーの中でも、売上高でアジア最大、世界有数の規模を誇ります。

当社は、前身である12のボトラー社の理念を継承し、これまでと変わらず「地域密着」と「顧客起点」を経営の原理とし、人々の一生と日々の生活に寄り添い、人生のあらゆる場面においてハッピーな瞬間とさわやかさをお届けする総合飲料企業として、お客さま、お得意さま、株主さま、地域社会、社員に対して、持続的に高品質なサービスや付加価値を提供してまいります。

また、当社は本業を通じて地域が抱える課題を解決するため、共創価値（Creating Shared Value：CSV）の概念のもと事業活動を推進しており、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標である「Sustainable Development Goals：SDGs（持続可能な開発目標）」の実現に貢献してまいります。

詳細は、コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社のWEBサイトをご参照ください。 <https://www.ccbji.co.jp>